



National Hospital Organization

Hizen Psychiatric Medical Center

HOSPITAL INFORMATION

病院案内



独立行政法人 国立病院機構

肥前精神医療センター



基本理念が記されているこのプレートは、旧木造外来治療棟の白壁に書かれていたものを建物解体時に切り取ったものです。1956年(昭和31年)～1960年(昭和35年)、日本で初めて開放処遇を実践した、故伊藤正雄所長時代を記念したものです。

基本理念

THE MOST IMPORTANT PERSON IN THIS HOSPITAL IS THE PATIENT

この病院で最も大切な人は患者さんである。

肥前医療センターは、人としての尊厳と人権を守り、信頼される医療を提供し、
高度の医療・臨床研究・研修の創造的統合を目指します

診療理念のキーワード (SUCCESS)

満 足	Satisfactory	これからの医療のコンセプトは患者様の満足度の時代です。
納 得	Understanding	インフォームドコンセント(説明と同意)を守ります。
総 合	Comprehensive	こどもからお年寄りまであらゆる疾患に対応します。
信 頼	Confidential	多職種スタッフによるチーム医療を展開します。
救 急	Emergency	24時間、365日の救急医療体制です。
専 門	Speciality	多くの専門医をそろえた最新の医療を提供します。
連 携	Social-net	県内外への広域ネットワーク医療を推進します。

緑ゆたかで広大な自然環境のもとで心のゆとりが回復できます。
いつでもお気軽にご利用ください。

運営方針

精神神経疾患の基幹医療施設として、先駆的・高度
専門医療と精神保健医療従事者の育成に努める

- I. 政策医療(精神科救急、身体合併症治療、依存症治療、司法精神医療、重症心身障害者医療)を推進する
- II. こどもの心の診療拠点病院、認知症疾患医療センターおよび依存症治療拠点機関として総合的モデル事業を推進する
- III. 包括的精神科リハビリテーションのモデル医療を推進する
- IV. 医師養成研修センターの機能充実を図り、多職種医療従事者に対する教育研修を推進し、本邦の精神科医療の発展に寄与する人材を育成する
- V. 高度かつ創造的な臨床研究にチャレンジし、様々な情報発信を行い、精神科医療の進歩に貢献する
- VI. 地域移行と地域医療連携をさらに推進し、診療機能の強化と診療協力を図る
- VII. 安定した医療を提供するため、健全経営を志向する

沿革

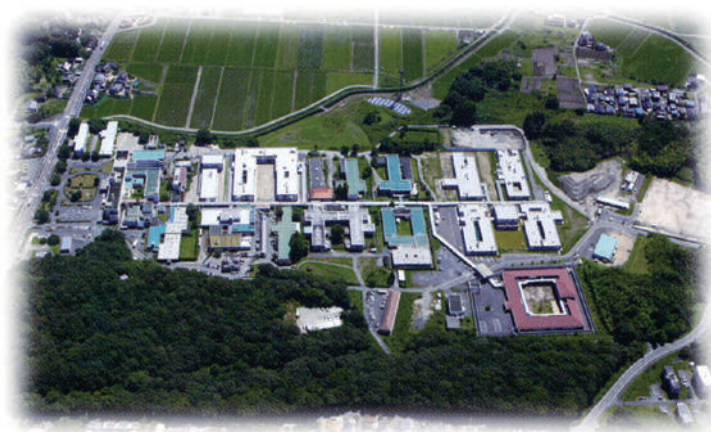
- 昭和 20 年 厚生省に移管され国立肥前療養所と改称
- 昭和 31 年 日本で最初に病棟の開放化に取り組む
- 昭和 47 年 全国に先がけて「動く」重症心身障害病棟開設
- 昭和 57 年 国立基幹施設となり情動行動障害センター開設
- 昭和 58 年 アルコール依存症の専門外来・病棟開設
- 昭和 59 年 老人性認知症の専門外来・病棟開設
- 昭和 60 年 精神科デイケア棟整備
- 昭和 61 年 臨床研究部開設
- 平成 7 年 薬物依存症ほか嗜癖行動の専門外来・病棟開設
- 平成 9 年 老人性認知症疾患治療病棟開設
- 平成 10 年 精神科救急・急性期病棟開設
- 平成 13 年 日本医療機能評価機構 精神科 B 認定
- 平成 16 年 独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センターと改称
- 平成 17 年 新医師臨床研修制度（協力型研修指定病院）
- 平成 17 年 動く重症心身障害児（者）B 型通園事業開始
- 平成 18 年 医療観察法病棟開設・日本医療機能評価機構認定更新（Ver.5.0）
- 平成 19 年 司法精神科専門研修事業
- 平成 20 年 機構連携後期臨床研修プログラム
- 平成 21 年 機構連携サテライト専門クリニック開設
- 平成 21 年 子どもの心の診療拠点病院指定
- 平成 22 年 医療観察法新築病棟開設
- 平成 22 年 医師養成研修センター開設
- 平成 23 年 認知症疾患医療センター開設
- 平成 23 年 アディクション専門治療病棟リニューアル
- 平成 23 年 日本医療機能評価機構認定更新（Ver.6.0）
- 平成 24 年 子ども外来整備
- 平成 25 年 心身総合リハビリテーション開始
- 平成 26 年 南病棟（4ヶ病棟）完成
- 平成 26 年 依存症拠点病院指定
- 平成 27 年 電子カルテ導入
- 平成 27 年 北病棟（4ヶ病棟）完成
- 平成 28 年 日本医療機能評価機構認定更新（3rdG：Ver.1.1）
- 令和 元年 ネットゲーム依存専門外来 治療プログラム開設
- 令和 2 年 佐賀病院にアルコール専門外来開設
- 令和 4 年 日本医療機能評価機構認定更新（3rdG：Ver.2.0）



院長 上野 雄文



副院長 村川 亮



施設の概況

敷地 278,577 m²

建物 48,940 m²

病床数 医療法 564 床 運用病床 504（病棟数 10）

診療科目 精神科、内科、神経科、小児科、外科（休診）、リハビリテーション科、歯科（入院のみ）

指定医療 医療観察法指定入院医療機関・指定通院医療機関
精神保健福祉法、応急入院指定病院、精神科3次救急労働者災害補償保険法、
原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（一般疾病医療）、覚せい剤取締法、
結核予防法、感染症法、生活保護法、更生医療、児童福祉法

研修施設 臨床研修医研修指定病院
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
老年精神医学会

■ 病院機能評価認定施設

診療

初期の相談から専門的な診断と治療、アフターケアまで包括的なサービスを提供しています。

外来

● 一般外来

精神科、神経科、内科、小児科、リハビリテーション科、歯科（入院のみ）

● 専門外来

発達障害、子ども外来、老年期、もの忘れ外来、依存症（薬物・アルコール・ギャンブル）

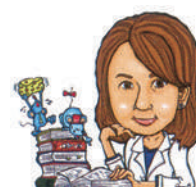
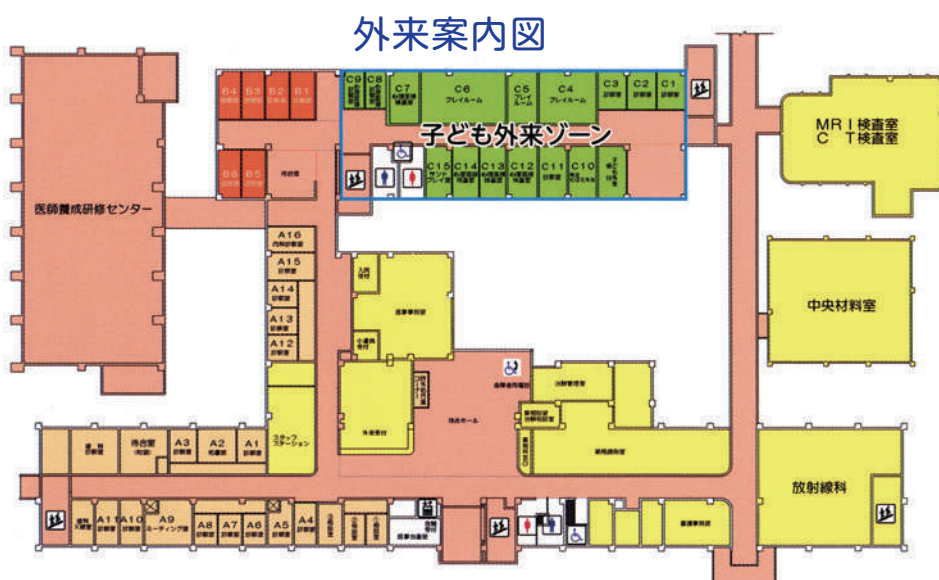
● 医療観察法通院医療施設

● 精神科救急医療施設

毎日、24時間受け付けます。県内だけでなく広域からの要請に応じます。精神科第三

次救急医療機関として重症な患者さんへも対応できるようにスタッフや施設を整備しています。

- 認知症疾患医療センター
- 依存症治療拠点機関
- セカンドオピニオン
- 地域医療連携室
- 精神保健福祉相談窓口
- 苦情相談窓口
- 重症心身障害児(者)生活介護・多機能型通所(ペガサス)



統括診療部長
會田 千重



外来ホール

精神科デイケア・ナイトケア

社会生活や家庭生活を送りながら、生活訓練や交流の場として利用できます。デイナイトケアを利用して出来るだけ入院期間を短くして、外来で治療を受けられます。

リハビリテーション医療

①精神科リハビリテーション

退院後の生活や地域生活を送るために人付き合いの練習をはじめとした支援・援助を行います。ひとりひとりに応じた調理などの家事やパソコンなど多様なプログラムを備え、多職種で実施しています。自宅への訪問を行い地域での生活を支援していきます。

②身体リハビリテーション

筋力・関節の動き・体力を向上させ基本的な動作能力の獲得及び向上を目指します。また、トイレや入浴など日常生活に欠かせない動作の獲得を目指します。摂食機能訓練により、摂食・嚥下機能の改善や機能維持を目指します。精神面や心理面に配慮しながら理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携して関わっています。

③認知リハビリテーション

注意・記憶・遂行機能・言語などの領域の認知機能障害に対して、多職種からなる専門スタッフより認知機能改善あるいは維持のための種々のアプローチを行っています。地域での共生を目指して認知症予防のための運動と認知課題や日常生活の中で出来る工夫を組み合わせたプログラムも外来にて行っています。

情動行動障害センター

強度行動障害・動く重症心身障害児(者)部門 療育指導科長 山元 美和子



強度行動障害、動く重症心身障害児(者)などの、重い知的障害で様々な行動上の問題を伴う方々に対応します。専門病棟では、医療・看護・発達支援の面から、医師・看護師・療養介助員・保育士・児童指導員・心理療法士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士などが“チーム”を組んで総合的に治療を行っています。中原特別支援学校(小学部～高等部)の訪問教育を受けることもできます。外来では、「お母さんの学習室」での家族支援や「多機能型通所事業(生活介護・児童発達支援・放課後デイサービス(ペガサス))」での在宅支援を行っています。



プレイルーム

児童精神科部門

小児科医長 瀬口 康昌



不登校やひきこもり、対人関係のつまづき、気持ちや行動の不器用さなど、子どもたちの様々な行動や精神的問題についての御相談をお受けしています。各種心理検査や行動観察などにより、問題とされている行動と精神状態の評価を総合的に行ない、様々な社会資源も活用しながら治療や養育の援助をします。外来では発達障害の子どもを持つ親御さん向けのプログラム(お母さんの学習室、CAREプログラム、自閉スペクトラム症勉強会)、発達障害の子どもさん向けのプログラム(たんぼぼクラブ)などを実施しています。また、必要に応じて、児童精神科病棟(つくし病棟)での入院治療も行います。児童精神科病棟では、医師、看護師、心理療法士、児童指導員、作業療法士、保育士、ソーシャルワーカー、管理栄養士といった多職種のスタッフが診療に関わります。中原特別支援学校(小学部、中学部)の訪問教育を受けることもできます。不登校の子どもたちを対象とした、合宿入院プログラム(つくし合宿)も行っています。

青年期・成人部門

いろいろな神経症圏の疾患(強迫性障害、摂食障害、不安障害、パニック障害)や心身症、うつ病などに対応しています。

司法精神科部門

精神科医長 遠藤 光一



西七病棟は、医療観察法(心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律)に基づく指定入院医療機関です。この法律では社会復帰を促進することを目的として掲げており、多職種チームによる手厚い医療を提供し、保護観察所や地域機関との連携を通じて早期の社会復帰を目指します。また、裁判官や検察官の囑託による様々な精神鑑定(刑事訴訟法、医療観察法、その他)も行っています。



西七病棟正面玄関

教育・研修・研究



精神科医師 松口 和憲

依存症治療部門 依存症治療センター併設

「わかつちやるけどやめられない」不健康な習慣へののめりこみ全般のことをアディクション（嗜癖（しへき））といいます。アディクションには、アルコール・薬物依存などの物質嗜癖、ギャンブル、ゲーム障害などの行動嗜癖、相手と適切な距離が取れない関係嗜癖などがありますが、当院ではあらゆるアディクションに対応できる体制を整えています。

専門病棟では、依存症に特化した心理教育、認知行動療法、作業療法など、体系化された特色あるプログラムを展開しています。また、自助グループを含めた関係機関とも密に連携し、退院後の支援にも力を入れています。

アディクションでは、ご家族が先に悩みを抱えるケースも多く見られますが、ご本人が受診される前の段階での相談窓口や、家族教室も実施しています。

当院は、佐賀県の依存症治療拠点機関、並びに相談拠点機関に指定されており、アルコール・薬物関連問題研修会や各種依存症の講演会など、地域のみならず全国に向けた情報発信・普及啓発活動も積極的に行っています。

老年期メンタル・ケア部門 認知症疾患医療センター併設

高齢者に生じる様々な精神疾患に対して専門的な評価・治療を行います。高齢者において生じやすい認知症・気分障害（うつ病）・せん妄などの病態に対して専門的医療を提供しています。認知症の早期診断・早期治療に力を入れており、種々の認知機能検査、神経画像検査（CT、MRI や他院と提携して行っている脳血流シンチグラフィ、ドパミントランスポーターイメージング ¹²³I-MIBG 心筋シンチ）、脳脊髄液検査（アミロイドβ蛋白・リン酸化タウ蛋白の測定）などを行って正確な診断に努めています。認知症の前駆状態である軽度認知障害（MCI）の方の受診も増えており、認知症を発症する前段階でのハイリスク群の方への治療的介入も行っています。老年期うつ病に関しては、通常の薬物療法のほか、難治性の方には修正型電気けいれん療法（mECT）を行って良好な治療効果をあげています。



認知症疾患医療センター長 橋本 学

また当院には、佐賀県指定の認知症疾患医療センター（地域型）が併設されており、認知症に関する専門的医療を提供するとともに、地域住民の方々や医療福祉関係の方々にも研修会、講演会などの情報発信を行っています。また、行政や医療福祉関係施設と共同して認知症の患者さんにとって住みやすい地域づくりをめざしています。

治療抵抗性統合失調症治療センター

電気けいれん療法（mECT）について

電気などで脳を刺激する治療法の中で精神科にとって最も有効な治療が「電気けいれん療法」です。「電気けいれん療法」は英語で“Electroconvulsive Therapy”といい、頭文字をとってECTと呼ばれています。

なお、現在普及している方法は静脈麻酔薬（血管に注入する麻酔薬）と筋弛緩薬（全身の筋肉を緩める薬）を用いてけいれんが起きないようにして治療する方法で、このようなやり方を「修正型（modified）電気けいれん療法（=mECT）」といいます。

mECTは一般的にはうつ病、躁うつ病、統合失調症（幻覚・妄想などが活発なケース）で薬物療法の効果が乏しい場合に行います。また、薬物療法によって重大な副作用が生じたため、十分量の薬物投与が困難なケースにも行われます。

クロザピンについて

クロザピン（商品名：クロザリル）は、今まで複数の抗精神病薬を内服しても十分に改善しなかった治療抵抗性の統合失調症の患者さんに対して、効果が認められている唯一の薬です。治療抵抗性統合失調症の方は人口 10 万人あたり 200 人程度いらっしゃると思われませんが、日本ではそのうちわずか 3% 程度の患者さんにしかクロザピンを届けられていません。その背景には、クロザリル内服中の患者さんの約 1% に起こると言われる無顆粒球症という副作用があります。クロザピンを使用するにあたっては必要な情報を CPMS というシステムに登録を行うことが義務付けられており、それぞれの患者さんに対して、適切な頻度で検査が行われ、安全に使用されているかを絶えず確認することができます。当院では佐賀大学病院血液内科と連携をとり、仮に無顆粒球症を起こした場合にも、適切な治療を行う体制をとっています。これまでに当院では 100 名以上の患者さんにクロザピンの導入を行ってきました。

受診希望の方へ

クロザピンについて相談したいとお考えの方は、まずは現在かかっている主治医の先生とご相談して、紹介状をもらって来ていただくようお願いします。電話にてご予約ください。クロザピンの概要については下記サイトもご参照ください。
<http://www.clozaril.jp/index.html>

医療関係者の方へ

紹介をお考えになる患者様がいらっしゃいましたら、お問い合わせください。

臨床研究部

本院には以下の研究室を設置し、様々な臨床研究を来院者の協力のもと行っております。我が国の医学研究に貢献し、今後の医療の発展のために尽力します。

脳生理・神経画像研究室 高次脳機能研究室 行動科学研究室 生化学研究室 薬理研究室
心理研究室 社会精神医学研究室 司法精神医学研究室 精神看護研究室

精神医療保健福祉従事者の研修と教育

特別講演（1階大ホール）

医師養成研修センター

医師養成研修センターを平成22年10月に開設しました。この施設は、医師のみならず、看護師、心理士、発達心理士、精神保健福祉士等、これからの精神保健医療福祉を支えるために高度のトレーニングを受けた専門職を育成するとともに、多職種間の交流と、互いの研鑽を目的としております。

3階建ての施設の1階は約240名が収容できる多目的講演ホールであり、様々な講演会やセミナーを開催しています。2階、3階にも様々な形式の会議や講習に対応できる多数の部屋を設け、初期研修医・レジデント（後期研修医）の新医局、さらには宿泊施設を完備しています。2階のテレビ会議室は、「ITを用いた多施設共同医師臨床研修システム」の中核として平成26年度より全国14ヶ所の国立病院機構精神科施設と共同してクルズスや講演会を開催しています。開設以来、多くの講演会やセミナー、ワークショップを開催し、沢山の方々に利用していただいております。

院外の方々にも医師養成研修センターをご利用いただき、精神保健医療福祉分野における多職種の人材育成に役立てていただければと思います。施設の利用については、当院管理課にお問合せ下さい。

当院が行っている医療従事者向け研修会の例（全国規模の研修を主催しています）

■精神看護研修 ■認知症ケア研修 ■アルコール・薬物関連問題研修 ■ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修 ■司法精神医学研修 ■CVPPP研修 ■肥前精神医学セミナー ■肥前セミナー



施設の紹介

病棟名	病棟の機能や特徴
北1	老年期・認知症
北2	精神・内科合併症
北3	精神・急性期・慢性期（男性）
北4	精神・慢性期（女性）
西5	精神・急性期 （精神科スーパー救急）
西7	医療観察法
南1	アルコール・アディクション・ ストレスケア（開放）
南2	児童思春期
南3	療養介護／医療型障害入所支援病棟
南4	療養介護／医療型障害入所支援病棟

※ 敷地は東京ドーム約6個分に相当します



病院シンボルマークの由来 ～「星の誕生」～

精神活動も生命も、遙か時間を遡れば、
銀河系の誕生、即ちビッグバンにはじまる。

21世紀の

新しい病院の創造的發展をイメージした。

National Hospital Organization Hizen Psychiatric Medical Center

外 枠：ふくらみのある逆三角形（ハート型をデフォルメ）

中央の星形：両手を広げた人のシルエットでもあり
当所の昭和30年代以来の開放的精神を表す。

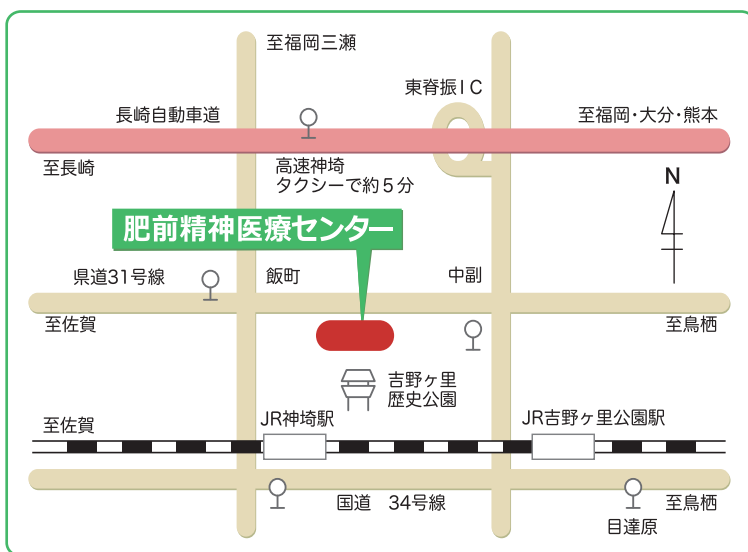
中央の英文字：HIZEN（肥前）
HUMANITY（人道的・人間的）
HEALTH（健康）
HOSPITAL（病院）



1 9 4 5：当所開設の西暦年号

色 彩：ペパーミントグリーン（健康）

三 つ の 角：ダイヤの朱色（暖かさ・元気・情熱）



交通のご案内

- 神埼駅からタクシーで約10分
- 吉野ヶ里公園駅からタクシーで約10分
- 福岡天神バスセンターから高速バス40分
(高速神埼下車、バス停よりタクシーで約5分)
- 高速東脊振インターチェンジより車で5分

外来受付時間

月曜～金曜 8:30～11:00（診療開始は9:00からです。）

土・日・祝日は休診です。※但し、急患はいつでも受け付けます。



独立行政法人 国立病院機構

肥前精神医療センター

日本医療機能評価機構 認定病院

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160

TEL 0952-52-3231 FAX 0952-53-2864

<https://hizen.hosp.go.jp/>